

Ⅱ 小学部

「授業改善に向けた指導計画と評価の在り方」

1 研究の趣旨

学習指導要領が改訂され、新しい時代に必要となる資質、能力が三つの柱で明確に記されたことにより、小学部では令和2年度より年間指導計画、単元指導計画等の指導計画を見直し、目標を「知識・技能」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に分けて明確に記すこととした。これまでは、学部内での系統性が保たれるようにと、学習内容を繰り返し検討してきたが、学習指導要領を基盤とすることにより、確実に段階を追って学習が積み重ねられるようになると思われる。

また、指導計画に基づいた授業研究を行い、よりよい授業に向けての改善を行うことも重要となってくる。授業研究会を計画し、授業評価を学部内の複数の教員で実施することにより、多方面からの意見を共有することができる。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を研究し、「どのように学ぶか」を学部の教員で共有して研究していくこととした。

さらに、計画の部分だけでなく、評価の在り方や活用の仕方についても充実を図ることで、PDCAサイクルにより、よりよい指導計画になると考え、評価方法についても研究していくこととした。

2 研究計画

〈令和2年度〉

日 程	内 容	授業の取組と改善
5月～9月	・新学習指導要領に基づいた年計の見直し ・小学部の系統性を持った年間指導計画の見直し、作成（全教科） ・新様式での単元指導計画の作成（音楽・体育・生活単元学習）	・三つの柱を意識した授業の取組 ・系統性のとれた学習内容を1～6年で検討
10月～12月	・授業研究（音楽・体育・生活単元学習） ・新様式での単元指導計画の活用	・「主体的・対話的で深い学び」の実現を考えた授業
2月	・授業研究会後、授業改善を実施した結果学部内報告	・PDCA サイクルで授業を評価し改善を発表
3月	・中間報告会 ・次年度の指導計画案作成	・改善点を次年度の指導計画に取り入れて作成

〈令和3年度〉

日 程	内 容	授業の取組と改善
5月～9月	・自立活動についての指導目標・指導内容を1教室で一人抽出して記入する。（教育課程研究集会・自立活動支援事業と連携を図る。）	・主体的な取組を促す効果的な指導と評価の在り方に基づく授業。 ・児童を取り出し、シートに沿った自立活動の実践
5月～2月	・指導計画に沿った授業実践と評価	・授業を実施後、振り返りと評価を行

		い、改善点を記録
7月・10月	・研究授業・授業研究会の実施(自立活動・生活単元学習) ・生活単元学習は、新様式での単元指導計画の実践	・複数の教員による授業評価とそれに基づいた授業改善 ・主体的・対話的で深い学び実現のための授業評価
2学期	・各学級で自立活動を実践	・学級及び学部内で話し合いながら授業を改善・指導方法の研究
10月～12月	・実践のまとめと原稿の執筆	
3月	・次年度の指導計画作成	・改善点を次年度の指導計画に取り入れて作成

3 実践

(1) 令和2年度の実践内容

①指導計画の作成について

これまでの年間指導計画の作成は学習内容が学年で系統性がとれているかを中心に作成されてきた。学習指導要領が改訂され、指導目標と内容が明確に記されたことにより、小学部の指導計画も全面的に内容、目標を見直し、目標は三つの柱に分けて記すこととした。(表1) 全ての教科、合わせた指導の指導計画を見直すために、学部内の職員をグループ編成し、低学年の教員と高学年の教員がともに話し合いを進めながら、学習指導要領に合わせて改訂を行った。教科の国語、算数、音楽については文部科学省著作教科書(特別支援小学校知的障害者用)も新しくなったことから、教科書の学習内容とも合わせた内容で計画することとした。

また、単元指導計画は学年やブロック単位の集団で学習を行う際に、複数の教員で共通理解を図って指導を行うために有効であるが、これまでは生活単元学習でのみ作成を行っていた。今回、他の教科でも単元ごとに指導計画を作成することで、より丁寧に内容や目標に焦点をあてた計画ができるようになると考え、集団で学習することの多い音楽と体育についても作成を行った。(表2)

表1 年間指導計画例 小学部4年(国語)

令和2年度 年間指導計画 小学部 4年 教科名「国語」(70時間) 主指導者:						
月	単元・題材名	時数	目標			学習内容
			知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力	
4月 5月 7月	なまえなーんだ <☆☆>	4	・母音の口形に注意して、はっきりとした発音ができる。 ・身近な物の名前が分かる。 物の名前を聞いて選んだり名前を言ったりすることができる。	・身近な物の固有名詞が分かり、実物と結び付け、生活の中で使うことができる。	・言葉がもつ良さを感じるとともに、読み聞かせに頼しみ、言葉でのやり取り聞いたり伝えたりしようことができる。	・身近な物の名前が分かる。 ・身近な物の名前を聞いたり、読んだりする。 ・身近な物の実物を教材にすることで、生活に密着した教材を使用することで関心を高め、定着を図る。
	思い出の作文 校外学習 運動会	4	・体験したことについて簡単な文章で書くことができる。	・経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。		・活動の思い出を写真や絵カードを見て振り返りながら、文字や文章にして書く。
	ひらがなをかいてみよう<☆☆>	4				
	暑中見舞い ひらがなをかいてみよう<☆☆>	3	・はがきの書き方が分かり、簡単な文章で便りを書くことができる。	・はがきを書く相手のことを思い浮かべたり、考えたしなから文字や文章で表現することができる。		・実際のはがきを使用して、暑中見舞いの書き方を知る。 ・簡単な文章で、自分の気持ちを書く。
	くわしくはなそう(1) <☆☆>		・形容詞や助詞、動詞の言葉を知り、話せることができる。	・身近なものを表す言葉を知り、表現することができる。		・色や反対言葉を付けた名詞を聞いて、話し、表現することができる。

表2 単元指導計画例 小学部高ブロック（音楽）

単元指導計画（音楽）					
単元名		実施月	9月～10月	時 数	12時間
		学部学年	小学部 4年	場 所	プレイルーム、音楽室
目 標	・曲のイメージをしながら歌うことができる。（知識・技能） ・鍵盤楽器や身近な打楽器を使い、曲の一部を演奏することができる。（思考・判断・表現） ・教師や友達と合奏する楽しさを感じながら、取り組もうとする。（学びに向かう力）				
学ばせたい力や指導の工夫		・歌詞の表す様子をイメージして身振りで表現する力を養う。 ・身近な楽器を演奏する活動を通して、簡単なリズムを覚えたり、教師のタイミングに合わせてたりして音を鳴らして表現する力を養う。			
関連する道徳項目		集団生活の充実、感動、畏敬の念			
題材名	学習内容（時間）	指導上の留意点			準備物等
歌唱「始まりのうた」	①始まりの歌 「手と手と手と」の曲に合わせて歌う。	・授業の始めに全員で歌唱「始まりの歌」であることを伝える。 ・身振りを付ける際には身振りに集中して声が小さくならないように留意する。			・CD ・ピアノ ・歌詞カード
歌唱「秋のうた」	②歌唱 「大工のきつつきさん」を伴奏やCDに合わせて身体表現したり、歌ったりする。	・教師は言葉（歌詞）をゆっくりはっきりと歌うようにする。 ・最初の説明の際に字が読める児童にストーリーを読むように促す。 ・ストーリーに合わせた振り付けを1つずつ増やしていく。 ・毎回、前に出て披露する児童を選び、意欲を引き出す。			・CD ・歌詞カード
児童	③児童	原音の軍艦に合わせて絵譜を提示したり、教師が出すタイミング、トーンチャ			

②授業改善へ向けての取り組み

令和2年度は、単元指導計画を見直し、新しく作成した音楽・体育・生活単元学習について研究授業及び授業研究を行った。音楽は、表2にある単元指導計画を基に授業を行った。授業研究会では、育成すべき資質・能力の三つの柱の目標を達成させるための授業のポイントについて意見が交わされ、次のようにまとめられた。

以下、体育・生活単元学習についても同様である。その後、PDCA サイクルにより授業の改善を行った。

ア【音楽】小学部 4年

目標	
・表2 参照	
授業のポイント	授業研究会後の授業検証
・曲のイメージをつかむために ICT を活用し歌詞の一部をイラストで視覚支援する。同じ曲を5・6年生が演奏したものを映像で鑑賞して曲のイメージを作る。友達の良いところを探し、4年生の演奏がより客観的に見直すことができる。（深い学び） ・分かりやすい言葉で伝えることを心掛け児童の積極性や主体性を引き出す。（対話的） ・目標の振り返りを行い、再確認する。（主体的）	・視覚支援を多く使用し、曲のイメージをつかめるようにする。4年生の演奏を映像で鑑賞し、振り返る。 ・視覚支援を適切に利用する。 ・より分かりやすい言葉で端的に伝える。 ・児童の積極性・主体的な行動を大切にする。
実際の授業改善	
・授業の目標を掲示しておくようにし、いつでも確認できるようにした。 ・視覚支援等を使って、教師のイメージを分かりやすく伝え、児童がイメージしやすくなった。	

イ【体育】小学部1年 体育 「サーキット運動」

目標	
・教師と一緒にまたは教師の支援を受けながら、いろいろな運動のやり方が分かる。(知識・技能) ・身体を動かすことや心地よさを表現することができる。(思考力・判断力・表現力) ・順番を守るなど、簡単な決まりを守り安全に楽しく器具を使った運動ができる。(学びに向かう力・人間性)	
授業のポイント	授業研究会後の授業検証
・見通しをもった授業の取組を行う。繰り返しの学習で定着を図る。(主体的) ・「やりたいな」を培う授業を行う。できたことの喜びを教師が受け止め児童に返す。(対話的) ・集団の大きさを目的によって変えることで、きめ細かな授業を展開する。(深い学び)	・実態に合ったサーキット運動の項目と分かりやすいガイドを行う。 ・児童を褒める、認める。円滑な教師間の連携ができるような体制を整える。 ・分かりやすい話し方の研究。明確な指示・支援を行う。
実際の授業改善	
・学習内容によっては、小集団で行った結果、一人一人をしっかり把握でき学習効果が上がった。 ・分かりやすい話し方、教材の工夫・丁寧なガイドをつけた。 ・褒めて伸ばすことを心掛ける。友達を認め、拍手を送る。 ・友達の様子を注目できるような場面を内容に取り入れた。	

ウ【生活単元学習】人権教育 小学部4年

目標	
・気持ちの良い挨拶や言葉遣い、行動について知ることができる。(知識・技能) ・嫌なことをされたとき、嫌な気持ちの表現方法を考え、表現することができる。(思考力・判断力・表現力) ・相手への思いやりや自己表現の仕方について考え、生活に生かそうとすることができる。(学びに向かう力・人間性)	
授業のポイント	授業研究会後の授業検証
・児童が体験する授業を行う。(主体的) ・丁寧な教材研究・児童の興味関心を引き出す手立てを考える。人形劇や〇×クイズで意欲的に授業に参加する態度を引き出す。(対話的) ・児童が生活に生かせる指導を行う。児童の授業後の変容を見ていく。(深い学び)	・人権教育を学習した次の日、元気に挨拶したり嫌なことをされたら「やめて」と言えたりする児童がいた。 ・授業後の児童の変化に注目する。 ・日々の学校生活の中で、一貫性のある指導を心掛ける。

人権教育の授業は、定期的に行われないが、今回の授業がきっかけとなって、日々の生活の中で、指導していく姿勢が確立した。一日一日の積み重ねが、人権教育を成り立たせる学習になることが改めて理解できた。

アからウの三つの授業について検証を行い、次の授業に成果が現れるように改善を加えていった。授業研究会を行って複数の教師の目から見た授業評価ができ、有効な授業改善が行われたと考える。

(2) 令和3年度の実践内容

①指導計画の改善について

令和2年度で指導計画を学習指導要領に合わせて作成し、授業実践を行ってきたが、実際に活用してみて様々な面で新たな課題が見えてきた。まず、目標については、これまで使用していた指導計画を元に作成し直したため、学習指導要領に記された表現と異なる独自の表現になり、三つの柱のどの項目に当てはまるのかが分からないといった課題が見られた。次に、評価についてであるが、これまで指導計画の反省は行っていたものの、観点別の評価については実施していなかった。

そのため、令和3年度は授業実践を通しながら、作成した指導計画の改善と観点別評価を行った。以下に研究の経過を記す。

表3 指導計画における課題と改善策

指導計画での課題	改善策
学習指導要領に記された表現と異なる独自の表現になり、三つの柱のどの項目に当てはまるのかが曖昧である。	目標を学習指導要領の中から段階ごとに合う適当なものを選択して記載する。生活単元学習などの合わせた指導の場合は、教科目標とは異なるため、単元ごとに達成する目標を記し、それに関連する教科の学習内容を指導要領の中から記す。
目標を観点別に評価して記入する際に、文章記述にしたため、児童生徒の様子の記載が多くなった。また、本来記入すべき指導計画の反省点を記載することが難しくなった。	目標に対する観点別評価を文章記述から、ABCの3段階での評価とする。C評価（改善が必要）のものと、指導上参考となる点について文章記述する。 〈評価基準〉A：達成できた B：おおむね達成 C：改善が必要
指導計画の評価の観点がなく、どんな内容を記載すればよいか曖昧である。文章記述であると、煩雑になりやすい。	指導計画に対する評価の観点を記し、ABCの3段階で記述する。

表4 年間指導計画例

【記入例】令和4年度 年間指導計画 小学部 3年 教科名「国語」（35時間）			主指導者：○○○○		計画作成者・授業の主な担当者名		
関連道徳項目		伝統と文化の尊重 努力と強い意志		「道徳の内容」本校版道徳項目一覧から該当する項目を1～3項目程度記載する。			
月	単元・題材名	時数	目標			学習内容	留意点
	☆☆ かっこうせいかつ	2	①知識・技能 ・身近な人の話しかけや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることができる。	②思考・判断・表現 ・身近な人の話に慣れ、簡単な事項と語句を結びつけたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすることができる。	③学びに向かう力 ・言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようと思えることができる。	・日常で使用する挨拶の言葉を見え、実際に挨拶をする。 ・身近な物の名前を見え、用途を理解する。 ・絵を見て、何をしている場面なのか話し合ったり、その場面に関連する言葉を考えたりする。	・分かりやすく、興味をもちやすいように、挨拶言葉カードや絵カード、写真カードなどを用いる。 ・自分の言葉で表現することが難しい場合は、選択肢を提示し、選べるようにする。
☆本にある単元については、単元名の前に☆印を記入する。 目標については学習指導要領で示されている内容表から抜き出す。国、算は教科書解説を参照する。「～ことができる。」 はなしてあふ 校外学習 運動会			(1)目標〈評価〉A:達成できた B:おおむね達成 C:改善が必要 ①知識・技能〈A〉 ②思考・判断・表現〈A〉 ③学び〈B〉 (2)実態把握・学習内容 〈B〉 (3)実施時期・時数 〈B〉 (4)支援方法・教材 〈A〉			改善点(C評価は必ず記入)・参考となる点 評価については、単元指導計画の記入例を参照。 過年の単元については学期ごとに評価し、次の学期に反映させる。 (4)挨拶の言葉をカードにしたことで、読んで挨拶を見えたり、生活場面で必要な際に活用したりすることができた。	
			・身近な人の話しかけや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることができる。 ・経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりとして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。 ・言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようと思えることができる。			・活動の思い出を写真や絵カードを見て振り返りながら、話したり、友達の発表を聞くことができる。 ・分かりやすく、興味をもちやすいように、絵カードや写真カードを用いる。 ・自分の言葉で表現することが難しい場合は、言葉カードや表情イラストなどの選択肢を提示して、選べるようにする。 ・発表の後は拍手などで称賛すること	
4日			年計Ⅰ(小)国語 記入例				
各教科(例)		+					

表5 単元指導計画例

【記入例：生単】 単元指導計画（生活単元学習・小学部）							令和4年度			
番号	8	年計番号と合わせる	実施月	4月・9月・1月	時数		6			
単元名	新しい学年・学期		学年	4年	複数月で実施の場合、 同じ単元名でまとめて可		南山・那須沢			
単元目標	I 新しい教室や友達、日課などの環境に慣れ、簡単な係活動などの役割を知る。 II 目標や係活動を自分に当てはめて考えたり、決めたりすることができる。 III 学校生活に対する意欲を高めることができる。						計画作成者・授業の 主な担当者名			
この単元を通じて児童・生徒にどのような資質能力を身につけてほしいか。本校の児童生徒に応じた目標を立てる。										
関連する教科	教科名	教科目標、内容（三つの柱①知識・技能、②思考・判断・表現、③学びに向かう力）					評価（学期）			
							1	2	3	
	生活	①	・簡単な係活動などの役割について知ること。 関連している教科は何か、どんな内容か、学習指導要領で示されている内容表から抜き出し、①②③のどれかを表記する。							
		②	・身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする事。 ・身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする事。					B		
		③	・自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。 ③学びに向かう力についての項目は、学習指導要領内容表に記載されていない教科もあり。その際は、各教科の目標一覧から抜き出す。					A		
国語	②	・経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 ・自分の名前や物の名前を文字で表すこと。 教科目標に対する評価についても、単元目標評価基準に沿って、学期ごとにABC評価を記入する。実施しない学期の枠には斜線を引く。					A			
図工	①	・身近な材料や用具を使い、かいたり、形を工夫すること。 この時間を通して何を学んでほしいか、ねらっている具体的な姿を児童に分かりやすい表現で記す。主体性を導くよう					B			
「道徳の内容」本校版道徳項目一覧から該当する項目を記載										

表6 単元指導計画・評価例

題材名：プロフィール作り ①名前、誕生日、好きなことを書く ②自画像を描く （1学期 2時間）		めあて ・自分のことを書こう。 ・ていねいに書こう。 ・好きなことを考えることができるよう、各児童に応じて例を示したり、イラストを提示したりする。 ・自画像を画用紙に描く前に、顔写真カードを見ながら顔の各部位の特徴を確認し、ホワイトボードに描いて練習を行うようにする。	自己紹介用紙 顔写真カード ホワイトボード ペン、画用紙 クレヨン 絵の具、筆
評価・改善点	1学期	〈評価〉A:達成できた B:おおむね達成 C:改善が必要 (1)目標 I (A) II (B) III (A) 〈評価〉A:効果的 (2)実態把握・学習 (3)実施時期・時数 (4)支援方法・教材 (5)授業の流れ (6)指導形態	●改善点(C評価は必ず記入)・○参考となる点 ○係活動に関する写真やイラストを用いたことは有効。 ○活動への意欲を高めるために、自分で係を選択したことは効果的。 ●使用する画用紙の大きさや支援の仕方に配慮する必要がある。 今後の指導に向けて、●改善点は必ず記入する。 また、○参考となる点がある場合は簡潔に記入する。
		〈評価〉A:達成できた B:おおむね達成 C:改善が必要	●改善点(C評価は必ず記入)・○参考となる点

また、全ての教科、合わせた指導の指導計画が学習指導要領に合うように作成された一方で、自立活動の年間指導計画はこれまでのスタイルでの指導計画を継続した。自立活動は個別の指導計画において計画、評価されることから、年間指導計画とは別に「自立活動における指導目標・指導内容設定シート」を活用して研究を行った。自立活動においても「何を学ぶか・どのように学ぶか・何ができるようになるか」が明確になるような指導を行う必要があり、主体的に学ぶためには、「できる」こと、「わかる」ことを手掛りにすることが有効であると考えた。「指導目標・指導内容設定シート」を活用し、複数の教員で児童の実態を的確に把握し、適切な目標設定を行い、「できる」こと「わかる」ことを取り入れた授業展開をねらって研究を進めた。

②主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業及び授業改善について

小学部では、教育課程研究集会や自立活動指導充実事業との連携を図る目的で、自立活動のケースを教室ごとに一事例を決め、「自立活動における指導目標・指導内容設定シート」（表7）を作成して実際の授業を実践することとした。各教室で話し合いを深める他、表8の11事例の中の2年2組について小学部1～3年の教員を中心に研究授業と授業研究会を二度行った（7/15、10/14）。1回目の授業研究会で検討された内容を基に授業改善をして2回目に臨んだ。

表7

自立活動における指導目標・指導内容設定シート					
学部・学年	小学部 2年	氏名	T・R	診断名	自閉症スペクトラム
1 実態把握					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
○うまくいっているところ(興味・関心、得意なこと等) ●つまづいている中でもうまくいっているところ(克服があればできる等) ○遊びたいおもちゃの名称や見たいDVD、自分の気になることを教師に伝えることができる。(心、人、コ) ○興味のある絵本を見たり読んでもらったりすることができる。(心、人、コ) ○平仮名や片仮名を読むことができる。(心、コ) ○音楽に合わせて楽しく体を動かすことができる。(心、環) ○楽しみな活動を励みにして、苦手なことにも取り組めることが増えている。(心、人、コ)					
本人・保護者の願い		言葉でコミュニケーションを上手にとれるようになってほしい。			
3年後目指す姿		担任だけでなく他の職員や友達にも自分の意思を伝えることができている。			
3 指導目標の設定					
長期目標		自分の意思を適切に教師に伝えることができる。			
短期目標		自分の好きな遊びや教師とのやり取りを通して、自分の意思を伝えたり伝え方を知ったりすることができる。			
5 具体的な指導内容の設定					
指導場面	自立活動	日常生活の指導			
指導内容 と手立て	- 教師と一緒にままごとやお屋さんごっこ、ドミノなど本児が好きな遊びを行う。(心、人、コ) - 最初にその時間に何の遊びをやりたいか、本児が決める。(心、人、コ) - 一緒にタイマーをセットし、終わりの時間を確認してから始める。(心、環) - 本人の遊びに教師が入っていき、教師が遊びに誘ったりしながら、やり取りを広げていく。(心、人、コ) - 最後にその時間を振り返り、感想を教師と一緒に言葉で表す。(心、人、環、コ) - 教師に言葉で思いを伝えることで、思いが伝わる経験を積む。(心、人、コ)	- 日常生活の中で友達の使っているおもちゃで遊びたいときに言葉で伝えられるようにモデルを示す。(心、人、コ) - 本人の伝えたいことを言葉にする。言葉で伝える経験を積む。(心、人、コ) - 一方的に話してきたときには、「教師の名前を呼んでから返事をする」とまたは「話が終わってから聞くこと」などを伝える。(心、人、コ)			
	重視した配慮点 ◎主体的 ◎意欲の喚起 ◎進んだ側面 ◎環境調整 ◎自己選択・自己決定 ◎学習の意味				

表8 各教室の実践事例

学年学級名	指導内容
1年1組 男子	人に伝わる言葉を増やすための指導
2年1組 女子	身体の動きの向上するための指導
2年2組 男子 (表7対象児童)	自分の意思の伝え方を広げる指導 (研究授業実践事例)
3年1組 男子	意思や気持ちを伝える言葉を増やす指導
3年2組 女子	コミュニケーションツールを使用して自分からの発信を増やす指導
3年3組 男子	集中を持続させて取り組む力の向上を目指す指導
4年1組・5年1組 男子	友達との適切な関わりを身につけるためのコミュニケーションに関する指導

5年2組 男子	気持ちのコントロール(自分の気持ちを振り返って言葉にするための指導)
6年1・2組 男子	正しい言葉と文字を身につける指導
重複学級 男子	注視力の向上を目指す指導
訪問学級 女子	感覚遊びなどで意思を表出する機会を多く作りコミュニケーションの拡大を図る指導

ア 小学部2年2組 「自立活動」 7 / 15の授業

〈指導内容〉 自分の意思の伝え方を広げる指導
〈本時の指導目標〉 1 絵本を通してのやりとりの中で教師とコミュニケーションをとる。 2 お店屋さんごっこで教師とのやりとりを楽しむ。
〈授業内容〉 担任とのコミュニケーションを円滑にとるため、自立活動の時間において個別の時間を設けた。担任は、最初の指導視点は、「本児の好きなことを行っていく中で教師がそこに介入していく。」児童の主体性を尊重する姿勢で指導にあたった。絵本の学習は、夏の食べ物を答えたり、プールに入るときの約束について絵を見ながら答えたりして、本児の興味が重なり教師とのやりとりが円滑に行われていた。絵本を一緒に見る時間を大切にやりとりを広げることができた。お店屋さんごっこでは、好きな活動がゆえに一人で完結する活動になっていた。お店の商品をバーコードが読めるスキャナーにかざすと「〇〇円です。」と音声が出るおもちゃを使って一人で楽しんでいる場面が多かった。
〈授業研究会内容〉 ・お店屋さんごっこでは、何を目標にしているか、教師のねらいをはっきりさせて指導すると良い。 ・本児に何ができるようになってほしいかを明確にする。 ・教師とやりとりができるような設定を工夫する等の検討事項が話し合われた。 児童の主体性を大切にしつつも、しっかりとした指導目的をもって授業を展開することが必要であることが授業研究会の中で共通の理解として得ることができた。

イ 小学部2年2組「自立活動」 10 / 14の授業（7 / 15を踏まえての改善）

〈改善点〉 ・子どもが好きなことを行う活動の中に教師が介入していく姿勢から、学習のイニシアチブは教師側にあり、教師が必要となる場面が多く出てくる指導内容。 ・教師とのやりとりがないと遊びが発展していかない設定。
〈本時の指導目標〉 1 絵本を通してのやりとりの中で教師とのコミュニケーションを広げる。 2 ドミノ遊びでは、教師とのコミュニケーションを楽しみ、発展させていく。
〈授業内容〉 好きな本を介したやりとりでは、本児はなじみのキャラクターがキャンプをしている設定で絵

本を見ながら言葉にして次々と状況を2～3語文程度で話すことができた。本児は、キャラクターが何の遊びをしているかと教師に質問し、教師の問いかけにもスムーズに答えていた。

ドミノ遊びでは、教師が必要となる場面が多数出てきた。次にどうしようか迷っているときに、教師に話しかけたりする場面もあり、本児の意図を汲んで教師が誘導する場面が見られた。本児は、用意されたドミノを全部使おうとする意思が感じられ失敗しても何度もやり直していた。最後に傾斜とスーパーボールを使いダイナミックにドミノを倒すが、その都度担任が気持ちを言語化し共有することで、より満足感が得られた様子だった。授業の終わりを示すのも明快であった。

〈授業研究会〉

前回の話し合いを基に教師とのコミュニケーションが円滑に行われ、必要なコミュニケーションが教師の目標としているところで展開することができた。前回の研究会を踏まえた上で授業改善になったことを確認した。



令和3年度は、「自立活動における指導内容・指導目標設定シート」を各教室1事例としたが、今後は小学部の児童についてすべて作成できると良い。教員間で話し合いながら複数の目で見えて作成することによって多面的な見方やより良い指導の仕方が模索できると考える。今後のシートの使い方や内容の精選も課題となってくる。「主体的な取組を促す効果的な指導」がテーマであったので、どのように指導したら、児童が主体的に取り組むことができるかを、授業の展開や教材の設定の点で話し合いが深まり、意義ある授業研究会となった。

③主体的、対話的で深い学びに視点を置いた生活単元学習の授業

令和3年度は、単元指導計画の様式を一部改善した。各教科等を合わせた指導を行っている生活単元学習では、関連する教科を示し、各教科等の目標をしっかりと把握して目指す資質・能力を明確にしておくことが大切であると考えた。

次の授業は単元指導計画に基づき、学習目標を三つの柱を意識して目標を立て、授業のポイントを育成すべき資質・能力の三つの柱から整理して授業を展開し、今後につなげていった授業例である。

ア 小学部5年2組 「生活単元学習」

＜学級の概要＞

本学級は小学部5年の男子6名で構成されている。自閉スペクトラム症やダウン症候群を併せ有する児童がおり、障害の程度は中度から重度である。児童の実態として、言語表出については、

言葉での意思疎通が可能な児童がいれば、発語がなくいくつかのサインを用いたり、教師の言葉掛けに応じたりすることでやりとりをする児童もいる。制作活動を好む傾向があり、休み時間にはのりやはさみを使って、自分で描いた絵を切り抜いたりして楽しんだり、色鉛筆を使って自由に絵を描いて楽しんだりしている。

<授業の概要>

今回、生活単元学習「秋祭りをしよう」という単元で授業を実施した。秋祭りで行う活動や制作する物は事前学習を通して児童と相談し、計画していった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまった校外宿泊学習で行うはずだった買い物学習が行えるように、児童の実態に応じて模擬銭やチケットで買い物ができるようにした。秋祭りでは、児童と相談して決めた「射的屋さん」と「お店屋さん（弁当・首飾り・小物）」の二つのコーナーを設けた。また、児童同士のやりとりができるように客と店員の2グループに分かれて実施した。

<授業のポイント>

◇児童が見通しをもつための視覚支援(主体的)

事前学習から授業内容の説明はパワーポイントを活用して説明した。文字が読めない児童もイラストや写真で見通しをもつことができ、落ち着いて参加することができた。また、単元の一番初めの授業で「秋祭り」という目標を示すことで、児童は準備段階から意欲的に活動に参加していた。

◇自分で考え、制作した商品を扱うこと(主体的・対話的)

おおまかな見本は示したが、どんな商品を作りたいかを自分で考えることで、意欲を高めることができた。また、材料集めも自分たちで行い、「この材料は〇〇にしよう」、「〇〇を探そう」など想像しながら活動することで、木の実や葉っぱなどの物と対話する姿が見られた。自分で材料集めから制作までを行うことで、児童は商品に愛着をもって活動に参加することができた。

◇児童の気持ちを重視した授業づくり(主体的・対話的)

児童の発想や思いを受け止め、授業に反映させていくことで、児童の活動への意欲が高まり楽しみながら秋祭りの準備を進めていくことができた。また、児童それぞれが違う商品を作することで友達が作っている様子にも興味を示すようになったり、実際に違う作品を作りたいと言ったりする姿が見られた。

◇店員と客に分かれた活動(対話的)

自然と児童同士でのやりとりが生まれるように役割を分担して秋祭りを実施した。店員役の児童が仕事内容を確認できるようにメモを用意したため、機械的なやりとりになってしまうことがあったが、仕事を忘れてしまった友達に合図を送ったり、ゲームを通して会話をしたりする児童もいた。

◇算数(お金)との関連(深い学び)

生活単元学習と絡めて、算数の授業でも金銭の学習を行った。秋祭りでもお金を扱うこともあり、児童の目標意識が明確となることで算数への学習意欲も高まった。

<本単元の成果と課題>

児童の思いを生かしながら授業を検討・実施していくことで、児童の活動への意欲を高めていくことができた。また、自分で制作した商品を扱うことで愛着をもつことができ、商品を大切に扱おうとする姿が見られた。対話的な関わりについては、秋祭りの内容の検討など教師との対話

や木の実や葉っぱなどのものとの対話は十分に行うことができた。しかし、児童同士の関わりとしてはメモを活用した関わりが多くなってしまいう傾向があった。児童の新しい表現や自由な表現を生み出すような手立てを検討したり、教師の働きかけ方を工夫したりして改善していきたい。

今回の単元では、事前学習から継続して導入部分でパワーポイント教材を活用した。イラストと文字を簡潔に提示することで、児童は授業の見通しをもちながら参加することができていた。また、単元の初期から「秋祭りをする」という目標に向かって、内容の検討や材料集め、制作などの活動に意欲的に取り組むことができ、学習効果が高まったといえる。今後も ICT 機器の活用を継続し、児童が見通しをもてる授業づくりを検討していきたい。

表 9 < 単元指導計画 >

単元指導計画（生活単元学習 小学部）					
番号		実施月	9・10月	時 数	8時間
単元名	秋祭りをしよう		学部学年	5年	担当者
単元目標	・はさみや色鉛筆、ボンドなどの道具を適切に使用して制作したり、模擬銭やチケットを使用して買い物をしたりすることができる。 ・秋祭りの内容を考えたり、自分の役割を覚えて活動したりすることができる。 ・秋の雰囲気を感じたり、教師や友達と一緒に活動に取り組もうとしたりする。				
関連する教科	国語	・季節の名称や秋に関する物の名称を覚えることができる。(知・技) ・季節について感じたことを表現しようとする。(思・判・表)			
	社会	・お店(店員と客)の役割について知る。(知・技) ・季節の行事に楽しく参加しようとする。(学び)			
	算数	・模擬銭やチケットを使用して、買い物をする。(知・技)			
道徳項目	自然愛護、伝統と文化の尊重、よりよい学校生活、集団生活の充実				
学習内容(時間)			指導上の留意点		準備物等
題材名：秋祭りの準備をしよう ①学習内容、今後の予定を確認する。 ②秋祭りの内容と役割を決める。 ③材料(木の実や葉っぱなど)を収集する。 ④商品を制作する。 ⑤役割の確認と練習を行う。 (5時間)			めあて	・秋祭りの内容を決めることができる。 ・材料を集めたり、工夫して商品を作ったりできる。	・パソコン ・モニター ・パワーポイント
			・パワーポイント教材を使用して、見通しをもてるようにする。 ・児童のやりたいことを取り入れながら、活動内容を検討していく。 ・制作物のイメージがもてるように、いくつかの例を提示する。		ト教材 ・ビニール袋 ・制作の道具



4 成果と課題

指導計画の改善については、研究を通して職員全員で取り組むことができ、全ての教科で目標を学習指導要領に合わせて知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の三つの柱で立てることができた。一方で、生活単元学習などの合わせた指導での単元指導計画では、目標と関連する教科についての表記が曖昧な部分が見られるため、今後も表記の仕方を研究し、統一した指導計画を作成する必要がある。また、表記の仕方については、令和3年度後期より書き方を統一するために書き方のマニュアルを作成したところであるが、令和4年度には書式を整えて、より作成と活用がしやすいものに改善が望まれる。

授業改善に向けての取り組みについては、授業担当者を中心に研究授業、授業研究会を通して小学部全職員で研究を行ってきたが、PDCA サイクルを担当者だけでなく、より多くの職員でなされるようにするためには、複数の教員で指導計画を共有し、計画、授業、評価を共有しやすいものにしていく必要がある。令和3年度は「自立活動における指導目標・指導内容設定シート」を活用し、実態と目標を複数の指導者で共有し、目標を意識した授業の計画を立てることを実践してきたが、授業は学級ごとに行うことが多いため、他の学級の授業計画や実践を見ることがあまりないのが現状である。自立活動は個々の様々な課題に応じてオーダーメイドで指導計画を作成することが望まれている中で、学級ごとに集団と個別での指導計画に苦慮しているところでもある。課題や目標に沿った指導計画を共有することで、複数の目での意見交換やグループ別での指導にも結びつくと期待される。これまで作成できなかった、通常学級での自立活動の指導計画の作成と活用についてはこれからの課題である。

引用資料

- ・自立活動における指導目標・指導内容設定シート 栃木県教育委員会 特別支援教育室

参考文献

- ・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月 告示
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）平成30年3月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月